令和２年12月25日

◆　ノーサイド　◆

また紅白歌合戦の季節が巡ってくる。

昨年のNHK紅白歌合戦で印象に残っているのは，ワールドカップ2019のメンバーを前にしての松任谷由実さんの『ノーサイド』。

まだ１年しか経っていない。今のこんな状況など想像だにしなかった。

昨年秋のラグビーワールドカップ2019の熱気は大変なものであった。スコットランドに勝利しプールAを全勝で突破した日本。

その熱気が残る中，この大会に繋がる2015年のワールドカップで活躍された五郎丸歩選手が，過日，2021年シーズン終了をもっての現役引退を表明した。

プレースキックを蹴る前の独特のポーズがクローズアップされるが，感謝の気持ちを伝えながらの引退会見での落ち着いた表情には，一つのことをやり遂げた清々しさを感じさせるものがあった。

私の通っていた大学は体育が全学年で必修で，その流れでラグビーを履修することになった。当時指導してくださったT先生は，その大学ラグビー部の監督も務められていた。その当時は全く存じ上げず後から知ったことだけれど，指導者としても大変高名な方だ。

Ｔ先生は，われわれ素人に対しても本気で相対（あいたい）してくださった。こちらが体育専門の学生ではないにもかかわらず，いやそうではないからこそ，一切妥協せずにラグビー主専攻の学生に接するのと（おそらく）同じように指導された。当時は自分の甘さ加減が勝ってしまい，感謝の気持ちにはほど遠い心持ちだった。今思い返すと，どの学生に対しても本気で接していただいた感謝の気持ちで一杯になる。

前任校勤務時，ラグビーを専攻された先生から，Ｔ先生が，その大学の医学系ラグビー部の監督をなさっていると聞いた。

昨年の９月初めであったが，久しぶりに母校のラグビーグランドを訪ねた。Ｔ先生は，その時も学生と一緒にグランドを走っておられた。今話した話題に触れると「そんなこともあったかなぁ」と，遠くを見つめておられた。

五郎丸選手の感謝の言葉で，そんなことを思い出した。

試合終了後は，敵味方分け隔てなく相手をたたえる「紳士のスポーツ」とされるラグビー。

感謝の気持ちから物事がうまく回り出すことがある。生徒の皆さん，「何をゴールに決め」るのか，そのためには何をしなければならないのか，放送による講話でも触れたように，もう一度自分の意志“will”を確認して欲しい。日々悩ましい状況が続いているけれども，こういったことも確認しつつ，少し立ち止まってこの年末・年始を過ごしてもらいたいと思う。